



中国大使館を訪れて感じたことがある。それは私たちは中国を一部分しか見ていなかった、ということだ。初め中国大使館を訪問すると決まったときは不安を感じた。現在、領土問題や環境問題など政治上は日中関係が良好とはいえない。中国大使館の方は私たちをどう迎え入れてくださるのか、私たちの小さな言動で怒らせてはしまわないだろうか、このような恐怖があった。

しかし訪れてみるとイメージとは異なり明るい場所で、大使館員の方もとても温かく私たちを迎え入れてくださった。

大使館の案内では、日中友好を感じさせるものが多いことに気がついた。庭にある桜は日中友好団体から親善の印としてもらったときいた。桜は日本の国花である。中国大使館の中に日本の国花があるのは当然なのかもしれないが、互いが歩み寄ろうとしている感じがして私には印象の良いものだった。また定期的に映画上映も行っている。この映画は中国の歴史や観光地についてなど中国をより知ってもらうためのものだ。私は中国大使館のホームページを見て多少の中国については知ったつもりだった、しかし日中平和友好条約を結んだ年をきかれて答えることができなかった。中国との関係を良くするためにも私たちが中国についてもっと知らなくては行けないし、知ろうとしなければいけないと思う。映画を通して中国を知るのは手軽なので、機会があれば是非見てみたい。

また、大使館の説明で大使館員について初めて知れたことが色々あった。

大使館員は外交を常に行っていて体力は関係のない、えらいおじさんばかりかと思っていた。しかし実際は様々な部門に分かれていて女性、男性、若い方からベテランまで多くの方が働いていた。そこでは主にする仕事も異なっている。私たちが話を伺った友好交流部では、民間との交流が主であり中国の学生に日本に来てもらう活動も行っている。両国の関係を良好にするためには互いの文化を知る必要がある。私はニュースで流れる中国の姿しか、中国のイメージをもっていなかった。しかしそれでは相手を知ることはできない。当たり前のように意外と私は中国の文化を知らないことに気づいた。学校で習うこと以外の中国についても触れてみようと思う。

日本語の勉強は、日本に来る前に中国で習ったそうだ。そこでは外国の文化を習うこともできるらしい。確かに日本に来て1から日本語を学ぶのは難しい。外国に行き生活していれば嫌でも喋れるようになるとは聞いたことがある。しかしそれを仕事で使うとなると、やはり母国で外国語を学ぶ方が良いのだろう。外国で働き外国語を使って仕事をする凄さを目の当たりにした。また、文化を学ぶことができるのは外国で働く上で重要だと思う。私自身外国の文化に興味があるので、もしかしたら将来外国に携わる職業に就いたらそれを活かせるのだろうか、など将来について考える機会でもあった。

大使館員になった理由を問うと中日友好のため、人民の子々孫々のためと答えて下さった。単純にとっても国思いなのだなと感じた。それと同時に、私たちは漠然とは日中関係を改善したいと思っているが実際に行動に移す人は多くないことに気づいた。私たちはテレビで流されるニュースに耳を傾けることはしても、中国との交流活動に参加する人はなかなかいない。ましてや仕事として日中関係を良くしようとしている人などほんの一握りなのではないかと思う。大使館員の方々は本当に人の役、いや国の役に立つ仕事をしているのだなと感心した。

そんな彼らは中国から日本に来て環境が変わるので多少の価値観は変化するが、大きな変化はないと話して下さった。中国は右車線だが日本は左車線など細かな変化はあると言っていたが、やはり近隣の国のため大きく驚いたことはないようだった。私は、アメリカに行くとき皆自分の意見をどんどん口に出すが日本人は空気で察する文化があるので初めは驚くと聞いたことがある。このような驚きがあると思っていたので、そうでないことが少し残念だった。やはり日本は中国から色々な文化が伝わった国。価値観に関して言えば大きな違いはないのかもしれない。

友好交流部の方は日中関係を良好にするために日中の学生の交流活動を行っている。私は学生を対象とした交流は良いことだと思う。若いうちは、周りからの刺激で考え方が変化しやすい。学生の頭が柔軟なうちに、政治なしの互いの国を見つめ合えば良い。そうすれば互いの悪いイメージ、偏見を捨てて付き合うことができる。私も残念ながら中国に対する多少の偏見持っている。それを払拭すれば互いに良好な関係を築けるのではないかと思う。私自身中国の学生が日本の私たちをどう思っているのか気になるところがある。機会があれば交流活動に参加し、中国学生の生の声を聞いてみたいと思う。

また彼らが交流活動の際に気をつけていることは、日本にいるということを忘れないようにすることである。具体的にいうと法律にしたがうこと、日本の民間人を尊重することである。我々は漢字を使う国同士であり、書道、囲碁、茶道などの共通の文化もある。仲良くしていくべきだ、また外国を知るきっかけとしてその国の美食を食べるのはおすすめだよ、と大使館員の方は笑顔で話して下さった。言われてみると確かに日本と中国は似ているところが多々ある。民間人を尊重することは当たり前のように意外と考えから抜けていたかもしれないということに気付いた。日本では中国の問題点ばかりに気をとられて中国自体を悪い国と決めつけてしまっているこ

とが多い。国がどうであれ民間人が悪いイメージを植え付けられるのは間違っている。近隣の国同士少なくとも民間人同士は友好的になるべきである。

中国の人々は自国をどう思っているのか問うてみたところ、pm2.5 や、まだまだ経済の発展途中なので様々な問題が多い、これらは早く収めるべきだと答えて下さった。意外だと思ったのは日本人が思っていることを中国人はきちんと自覚して気にしていたということだ。Pm2.5 についてだが、経済発展と環境問題は隣り合わせで日本も公害を乗り越えて成長してきたところがある。だから中国を一概に責めるのは良くないと思った。

中国から見た日本についてだが、日本は経済が発展しているということだった。また、平和を愛している国だがここ最近一部の人はそうでない残念なことだ、とおっしゃっていた。あくまでこれは大人の、さらにいうと大使館員の方々の意見であるため文化や習性についてではなく国としての考えを聞かせていただいた。しかし日本の平和主義が脅かされそうなことは事実である。集団的自衛権が衆議院では可決された。それも周りの野党議員が「反対」のシュプレヒコールを上げている中でだ。さらに集団的自衛権を違憲だと唱える憲法の専門家も数多い。そんな中で強行する政権はどうかと思う。私たちも何か動かなくてはならないと感じ、先日安全保障関連法案反対のデモに参加した。学生が企画したデモに参加した人数はおおよそ 600 人。初めてのデモだったのでこれが多いのか少ないのかわからないが、私から見ればこんなにも多くの人々が反対していることに少しだけ安心感を覚えた。しかし裏を返せば多くの人々が反対しているのにも関わらず動こうとしない政権に怒りを感じた。それでも平和を守るためには行動することが重要だと思う。今平和のために動き始める人が増えている。今年が終戦から 70 年の節目の年でもある。集団的自衛権の参議院での審議ももうじきだ。今ここで踏みとどまり、日本の「平和」というイメージを取り払われぬようにしてほしいと思う。

最後に大使館のような国際関係の職に就くために今高校生に取り組んでほしいことを尋ねた。高校生には中国を客観的に見て欲しいとのことだった。日本人が中国の一部だけをみているのは中国も気になるようだ。確かに私たちは中国の良い部分に焦点を当ててないように思える。しかしそれを理解するのに私たちは知識不足である。食文化や漢字、仏教など中国から伝わったものは多々ある。それを思い返して今一度中国と向き合ってみるのも大切だと思う。私もそのような姿勢で中国を見つめるようにしたい。